

# 國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

大蔵省の人事・組織と政治：  
「各省官制」以降の明治期を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード: 政策領域, 専門分化, 学士官僚, 超然財政, 主義ある財政経済策 作成者: 篠原, 大輝, Shinohara, Hiroki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2529">https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2529</a>

# 論 文 要 旨

学籍番号	203312	氏 名	篠原 大輝
論文題目： 大蔵省の人事・組織と政治―「各省官制」以降の明治期を中心に―			
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論は、「各省官制」以降の明治期における大蔵省の政策領域形成を、組織・人事・官僚と政治との関係から明らかにしたものである。</p> <p>当該期の政官関係に関する研究は、藩閥・政党を中心に行われてきた。重要な研究としては、従来の政党と官僚の対立という図式を克服して政党政治実現への過程を明らかにした清水唯一朗氏の研究がある。しかし、官庁・官僚を中心とした研究は必ずしも多くない。</p> <p>そこで本論は、大蔵省・大蔵官僚を事例に政官関係の分析を行った。大蔵省を取り上げた理由としては、「政府ノ財務ヲ総轄」する官僚機構全体の調整者・バランスーとして規定され、薩摩閥の政治基盤でありながら議会への期待も有するなど、官庁・官僚と政治との関係を分析する最適な位置にあると考えるからである。</p> <p>第一部では前提として、戦前期大蔵省全体の組織・人事をキャリアパス分析によって分析した。第二部では第一部の成果を踏まえて、当該期大蔵省の組織構造・人事体系を分析し、同省の基本的性格が形成されていく過程を検討した。第三部では、大蔵官僚の財政論と議会観を分析し、彼等の考える社会像・国家運営構造を検討した。</p> <p>検討の結果、大蔵省は早くから脱藩閥化し、学士官僚を中心として高度に専門分化した省内構造を築いていたことが明らかとなった。大蔵省では、部局以上に政策領域ごとの人事体系が大きな意味を有しており、複雑に組織構造を規定していた。初の政党内閣である第一次大隈重信内閣においては、松田正久蔵相に人事権を掌握され、組織としては政党内閣と対立したが、個々の政党员就官者と大蔵官僚は良好な関係を築いていた。また、学士官僚が「大蔵事務」の円滑実施という観点からあるべき社会像・国家運営構造を構想していたことも明らかとなった。議会の財政監督権によって大蔵省は各省への財政統制権を確立したが、藩閥・政党―議会との関係調整は大きな課題であった。阪谷芳郎は「社会ノ進運」のため「学理」に基づき一切の政治的要素を排除して財政経済政策を行う「超然財政」を、添田寿一は「中等社会」の維持発展のため「公党」による「主義ある財政経済策」を国家運営構造として構想し、実現のため行動していたのである。</p> <p>残された課題は、専門分化した各政策領域における「行政技術」を可視化することや、阪谷・添田の思想がその後の大蔵省に持った意味や、大蔵省を取り巻く権力構造を明らかにすることである。</p> <p style="text-align: right;">(998 字)</p>			
キーワード (5 語)			
政策領域 専門分化 学士官僚 超然財政 主義ある財政経済策			